

[030] 言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26320>

出版情報：言語文化論究. 30, 2013-03-26. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：



退職教授研究業績表

羽賀賢二教授

I. 著書

『仏検公式基本語辞典 3級・4級・5級』、2009年4月、朝日出版社、322頁

II. 学術論文

1. La Théorie des Passions dans *La Philosophie Morale des Stoïques* de Guillaume Du Vair、1980年7月、『独仏文学研究』（九州大学独仏文学研究会）30号、pp.209-221
2. ルイ・ド・ラ・フォルジュと『人間精神論』（1）、1988年7月、『独仏文学研究』（九州大学独仏文学研究会）38号、pp.63-80
3. ギョーム・デュ・ヴェールの『聖なる哲学』、1994年3月、『言語文化論究』（九州大学言語文化部）5号、pp.57-67
4. 前期古典フランス語の散文—Du Vair の場合、1994年6月、『独仏文学研究』（九州大学独仏文学研究会）44号、pp.217-229
5. ギョーム・デュ・ヴェールの『雄弁論』、1995年3月、『言語文化論究』（九州大学言語文化部）6号、pp.129-138
6. ギョーム・デュ・ヴェールの『社会生活の勧め』、1995年7月、『独仏文学研究』（九州大学独仏文学研究会）45号、pp.185-195
7. 未習フランス語学習者における動詞活用の学習について、2000年3月、『言語文化論究』（九州大学言語文化部）11号、pp.129-139
8. 「バリケードの日」事件以降の Guillaume Du Vair—そのポリチック思想の形成、2009年2月、『言語文化論究』（九州大学言語文化部）24号、pp.1-17
9. 1590年のパリ包囲戦と Guillaume Du Vair の『恒心論』—新ストア主義をめぐって、2010年3月、『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）25号、pp.65-90
10. Justus Lipsius の『恒心論』とストア主義思想、2011年2月、『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）26号、pp.85-105
11. Guillaume Du Vair の『和平の勧め』—éloquence gallicane の傑作、2011年10月、『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）27号、pp.77-101
12. Guillaume Du Vair の「サリカ法護持演説」—1593年6月28日のパリ高等法院総会、2012年2月、『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）28号、pp.1-22
13. アンリ四世のカトリック改宗とポリチックの思想—Guillaume Du Vair の『教皇特使 Sega 枢機卿殿下に対するパリ市市民の返書』、2012年10月、『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）29号、pp.1-21

Ⅲ. 翻訳書と解題

1. エメ＝ジョルジュ・マルティモール著『ガリカニスムーフランスにおける国家と教会』、朝倉剛との共訳、1987年7月、白水社、152頁、解題 pp.153-156、参考文献 pp.i-iv
2. ポール・ベニシュー著『偉大な世紀のモラルーフランス古典主義文学における英雄の世界像とその解体』（叢書・ユニベルシタス 397）、朝倉剛との共訳、1993年7月、法政大学出版局、301頁、解題 pp.383-393、訳注 pp.328-381、参考文献 pp.xii-xxi
3. エルンスト・カッシーラー著『デカルト、コルネーユ、スウェーデン女王クリスティナー十七世紀の英雄的精神と至高善の探求』、朝倉剛との共訳、2000年9月、工作舎、122頁、解題 pp.178-193、訳注 pp.140-162

Ⅳ. 口頭発表

1. 「思想史家としてのカッシーラー」、1993年8月、日本仏語仏文学学会九州支部・17世紀分科会

Ⅴ. 項目執筆・編集

1. 『小学館ロベール仏和大辞典』、1988年、小学館

Ⅵ. 教科書

1. 『フランス語教室文法』、田中栄一、西岡範明、高藤冬武との共著、1976年、白水社
2. 『努力のフランス語文法』、高藤冬武との共著、1989年、白水社